

# ドナウ通信

## 目 次

大使館・マールナの会からのお知らせ			2
離任ご挨拶	堤 功一大使		3
新任ご挨拶	丸山 和正		4
補習校便り			5
< 作文 >	モネの水蓮について	玉木 聡志	5
< 童話 >	「悪魔と湖」	工藤 葉子	6
< 随想 >			
額縁の中の景色を求めて	堤 一実		9
折り紙	山口 美千子		11
Dear Friend	加藤 久仁子		12
私の読書	早崎 勉		13
掲示版			14

# 大使館からのお知らせ

昨年十月一日より新たに行政手続法が施行しました。同法は、わが国の行政運営における公正の確保、透明性の向上等を求める内外からの要請に 대응る為、臨時行政改革推進審議会の答申（平成三年十二月十二日）に基づき、行政庁の処分、行政指導及び届出に關する手続きに關し、共通する事項を定めることによつて、行政運営における公正の確保と透明性の向上を図り、もつて国民の権利益の保護に資する事を目的として制定されました。この目的のため、同法には大使館の領事事務のうち旅券手続との関連で、申請が大使館に到着してから処理されるまでに通常要すべき標準的な期間を設定するべき事も規定されております。（第六條）

右指示を受けて当館では、当民主化移行後の在留邦人数の増加並びにそれに伴う領事々務の増大をも考慮にい

れつつ、旅券発給等にかかわる標準的な処理期間を次のように設定いたしましたので、在留邦人各位におかれましては今後これを念頭に手続きを段取りされますようお願い申し上げます。

- (1) 一般旅券の新規発給  
おおむね七日間
- (2) 一般旅券の再発給  
おおむね十四日間
- (3) 一般旅券の訂正  
おおむね五日間
- (4) 一般旅券の査証欄の増補  
おおむね四日間



## マールナの会発足会

### 及び記念パーティー

日時：2月9日（木）10時～11時30分  
場所：日本大使公邸  
会費：半年500 Ft

当会は、在ハンガリー日本婦人、及び日本人を伴侶とする婦人の為の会です。ハンガリー到着早々の人々を、一日も早く暮らしに溶け込めるよう支援し、又、情報の交換の場として会員相互の親睦と、日本とハンガリーの理解友好を目指して誕生する会です。会員全員の手で育て上げて行きたいと願っています。是非多数の方々のご御入会、御参加をお待ちしています。

尚、会の名称はハンガリーで取り分け美味しい”木いちご”のハンガリー語名”Málna”に由来しています

連絡先：吉田 13517358  
有光 17614632  
サーライ 21210762  
松山 27212100

# 離任ご挨拶

日本国大使

堤 功一

ドナウ通信を通じて、離任のご挨拶を申し上げます。

二年八か月に近いハンガリー在勤でしたが、少々短すぎる感じでした。短すぎると言っても、もっと長くいれば仕事の上で何か出来たであろうと言う意味ではなく、ハンガリーとその周辺をもっと良く理解しておきたかったと言う個人的感懐だ、とでも申しましょうか。ハンガリーは穏やかな風土で、親しみが持てましたが、私にとって比較的分かりにくい国でした。これ迄私には馴染みの薄かった地域ということもあります。何と言ってもハンガリー語と言う言葉が一番の障害であったと思います。また、ハンガリー国民自身が体制の転換という大事業に忙殺されており、その関係もあって顔は西に向

いていることもありましょう。

ハンガリー在勤の間、この体制転換の成り行き、市場経済への移行の成否がやはり私にも最大の関心事でした。

しかし、ハンガリーの指導者と国民が市場経済への移行をどのように受け止め、どのように成し遂げようとしているか、という肝心の事すら私は良く掴めませんでした。時々専門家の話もきくのですが、なかなかピンと来ないのです。どうも私にはハンガリーの人々は暢気すぎる印象で、もっと輸出産業の育成など一生懸命にやらなければいけないのではないか、と思われてなりません。日本人との感覚の相違でしょう。日本の経験や産業政策など何回かこちらの人に申し上げましたが、本当のところ、こういう事にはハンガリーの人々は関心が少ないようです。EUに入れば大体はうまく行く、と知っているのでしょうか。果たしてどうか、とかその他いろいろ気になります。今後とも注意してフォローして行くことになりましょう。

二月末には日本に帰り、間もなく退官です。満四十年の外務省生活でした。在ハンガリーの皆様にはいろいろお世話になりました。今後とも宜しくお願い申し上げます。



## 新任ご挨拶

平成七年度日本人会会長

丸山 和正

日本では一月十七日早朝、神戸を中心として発生した「阪神大震災」の痛ましいニュースが連日報道されていますが、この災害の中で、助かった人のインタビューで、

「近所の人々がお互いに呼びかけ、助け合ったお陰です。」との言葉が多く聞かれました。又、震災後の復旧、再生に向けても政府のみならず多くの民間の方々が一心に惜しみない援助の手をさしのべています。

いかに人と人のつながりが大切であるか教えられます。

環境、言葉、宗教等の異なる海外で生活する我々日本人にとって、毎日安心し、楽しく生活する上で、やはり日

常の親睦と助け合いが大切ではないでしょうか。

ハンガリー日本人会の会則にも第二条（目的）に、

「本会は、ハンガリーに在留する日本人相互の親睦、及び互助を計ることを目的とする。」と、明記されています。

この趣旨からも、文化、スポーツ、娯楽等の行事を通し、親睦と互助の場を一つでも多く作れるよう、新役員の方々と力を合わせ企画する予定です。皆様方の御参加、御協力をお願いします。

尚、未筆になりましたが、古屋兼松事務所所長には昨年一年間、日本人会会長として御尽力いただき、誠に有り難うございました。

日本人会を代表して一言お礼申し上げます。

## 補習校便り

今年に入って初めて全員が顔を合わせた1月14日土曜日、恒例の餅つき大会と、それに先立ってかるた大会を行いました。俳聖かるたというのを皆さんは御存知でしょうか。芭蕉、去来、蕪村、一茶の俳句、計48句をかるたにしたもので、百人一首とは逆に読み札ではなく、取り札に絵が書いてあります。これまでの書き初めに代わり、かるた大会をすることにはしましたが、なにせ小学1年生から中学2年生までを抱える本校です。高学年だけが盛り上がり、低学年には非常に退屈な日となるのでは：と一抹の不安がなかつたわけではありません。しかし全くの杞憂に終わったことは嬉しい限りです。

12月から授業の合間を縫って少しずつ練習をしたのですが、五、七、五、のリズムの良さ、取り札に描かれた絵のお陰で、低学年にも親しみやすいものとなり、「かるたの練習はいっする

んですか」と、授業開始と同時に聞かれることも度々でした。

さて、14日当日は、二人或いは三人一組のグループを作り、くじ引きで対戦相手を決め、トーナメント方式での試合となりました。小学一年生が中学生を破るといふ快挙を含め、非常に白熱した予選を勝ち抜いてきた3年Aチーム対5年生の決勝戦は、最後の最後まで勝利の女神がどちらに微笑みかけるかわからない試合となりました。

場所を大使館に移動してのもちつき大会は、雪の降りしきる中で行われましたが、この日を非常に楽しみにしているハンガリー人のお父さんをはじめとして保護者の方々の御協力のもと、おいしいお餅がたくさん出来上がりました。子供達はお餅をついたり食べたり、雪合戦をしたりと、寒さなどいっこうに気にならない様子。やはり子供は風の子だと、妙に感心させられました。

## 作文

モネの水蓮について

玉木 聡志

冬休みにパリへ行き、オランジェリー美術館でモネが死ぬ数年前から描き始めた、集大成とも言われる壁一面の「水蓮」を見た。

ぼくたちの図書館の六倍はある大きな部屋いっぱい描かれた絵を見て、いったい描くのにとどのくらいの時間がかかったんだろう、と思った。ぼくも絵を描くのが大好きで、有名な画家が作品をしあげるのにどのくらい時間をかけるものなのか興味もあった。

資料がすくないのであまりよくわからなかったが、いろいろ家で調べた結果、二部屋壁一面にかけられた八枚の内一枚は、一九一四〜一九一八年の間に描かれていた。ぼくは巨大な絵とはいえ、一年ぐらいいかなと思っていたのでびっくりした。

モネはパリ郊外ジヴェルニーの自宅

## 童話

### 悪魔と湖

工藤 葉子

しーんと深い森の奥に、悪魔が住んでおりました。

悪魔は、まだ年若く、やっと百才を越したばかりでした。

悪魔界の掟では、悪魔は三百才まで悪行の修業をつまなければなりません。そして、その間だれにも姿を見られてはならないのです。

透明人間のように姿を消した悪魔の生きがいは、意地悪をすることでした。誰かが困っているのを見るのが、何より好きなのでした。

森の中には、小さな湖がありました。水はいつも冷たく澄んで、りすが木の突一つ落としても、すぐに見つけさせるほどでした。

ですから、湖のほとりには、いつも森の動物たちが、水をのみに集ってきておりました。

ある日悪魔が、湖のそばの木の上で昼寝をしておりますと、鹿の親子がやってきました。

「お母さん、ここのお水は、冷たくておいしいね。」

「そうね。それにいつもたっぷりあってほっとするわ。」

それを聞いた悪魔は、フンと鼻をならしました。

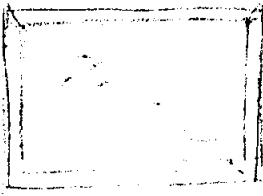
「この水を生ぬるくしてやろう。い

で死ぬまで家の周りをとりかこむ水蓮をひたすら描き続けたそうだ。

モネは一八七四年に仲間と、ともに印象展を開き今日、印象派とよばれるのは、その時、『印象、日の出』と言う作品を出品したところに由来するらしい。

同じ睡蓮でありながら八枚全部が違って見えるのは、睡蓮の花の形よりも季節とか、朝、昼、夜、の光のあたりぐあいがみなちがっているところに、ちゅういして描いたためだと思う。

ぼくもいつかこんな絵を描いてみたいと思った。



や、いっその事干上がらせてしまおう。そうすりゃうるさい動物たちに、昼寝のじゃまをされないのですむぞ。」

悪魔はさっそく湖のほとりに立ち、両手を高く上げて、何やら呪文を唱え始めました。

すると、カッと太陽が照りつけ、湖から、ゆらゆらと陽炎がたち始めました。

悪魔のひたいからは、汗がポタポタと落ちました。

「ええい。まどろっこしい！」

そういうと、悪魔は、腕をぐるぐる回し、また呪文を唱えました。

突然、ゴーツというすごい音がして湖の真ん中に、竜巻がまい上がりました。そして、あっという間に、水は吸い上げられてしまいました。

それを見た悪魔は、満足して帰って行きました。

次の日、悪魔は、動物たちが困っている様子を見ようと、いそいそ湖へかけていきました。

しかし、何としたことでしょう。干上がっていたはずの湖は、すっかりもとどおりになり、鹿やきつねが、水を飲んでいました。

実は、湖の中ほどに泉があり、こんこんと冷たい水をわき出させていたのです。

悪魔は、チツと舌をならしました。そこへ、おしゃれなきつつきが、飛

んで来ました。きつつきは、ポーズをとりながら、水に姿を映して言いました。

「きれいな水！ 本当に水鏡だわ」

悪魔は、それを聞いて、ニヤッと笑いました。

「よし！ それなら今度は、水をきたなくにごらせてやるぞ」

悪魔は、ぐいと両手をつき上げ、呪文を唱え始めました。

見る見る空に、真黒な雲がわき上がりました。

ザーッ！

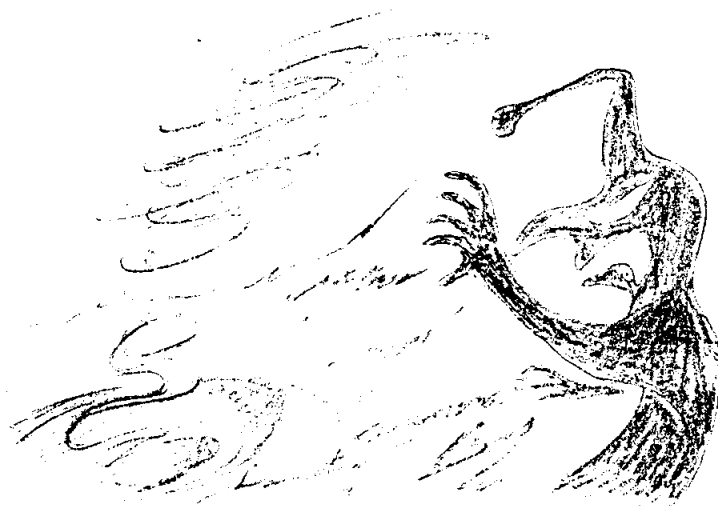
天がわれた様に、大粒の雨が降り、湖はたちまちにごっていききました。

悪魔も、びしょびしょになって、それでも笑って帰って行きました。

次の日です。悪魔はまた湖へやってきました。

「今日こそ、動物たちの困った顔が見られるぞ。あのきつつきの泣きっ面を早く見たいものだ。」

しかし、悪魔が見たのは、またいつ



も通りの澄みきった湖でした。

夜のうちに、泥は皆、底に沈んでしまったのです。動物たちはおいしそうにのどをならしていましたし、小鳥たちは、さえずりながら湖の上を飛びまわっていました。

悪魔は、地団駄踏んでくやしがりましました。

「ようし、ようし！ そんなにこの水が好きなら、水でなくしてしまってる！」

悪魔は、両手を、これ以上のびられないほど天につき上げ、声をはりあげ呪文を唱えました。

「◇\*▼☆#◎※□」

急に、冷たい風が吹き、湖の水は、ピシッパシッと音をたてて、凍り始めました。

動物たちは、みな驚いて逃げていきました。まもなく湖は、すっかり凍ってしまいました。

悪魔は、声高く笑いました。

その時です。子うさぎが一匹、ぴよんぴよんと湖のふちへやってきました。

子うさぎは、水のおいをかいだり、なめたり、前足でちょんちょんさわったりしていました。そのうち、おっかなびっくり、氷の上に乗って、つるりとすべってしまいました。

そのままおしりですべった子うさぎは、ぴよこんととび上がり、また、すってんころりん。

何度もくりかえすうち、子うさぎは楽しそうに、声をあげて笑い始めました。

木の影から、様子を見ていた他の動物の子供達も、そろりそろりとできました。

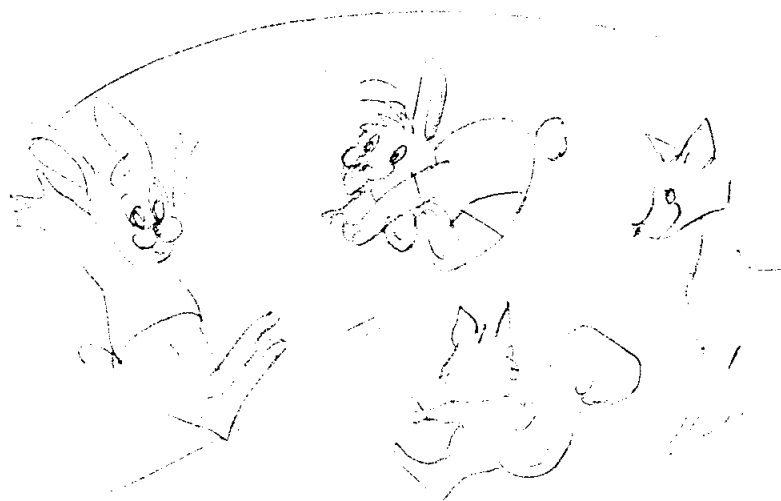
そして、じきに子ぐまも、子鹿も、子りすも、みんな湖の上ですべって遊び始めました。

「ハ、ハックション！」

これを見た悪魔は、くしゃみ一つすると、肩を落して森の奥へもどっていききました。

後には、子供たちの楽しそうな声がひびいていました。

おわり





# 随 想

## 額縁の中の景色を求めて

堤 一実

一九九二年の夏にこの国に来て間もなく、とある絵画専門の骨董屋で壁ぶさぎにでもしようかと、一点の絵を求めた。何の変哲もない風景画である。額縁の方が絵にくらべてまあまあ立派だといえようか。かの有名なバドチョニカと思われる山とこれに連なる二、三の丘を遙か向うに見て、手前は斜面に葡萄畑、中程に一群の村落と教会を見おろしている風景である。季節は早春であろうか。サインはローナイとある。しかし今もって例のリップル・ローナイとは信じていない。(拂った金額から見ても、である)

朝に夕に、いやでも目に入るこの絵を見ているうちに、一体この風景はどこにあるのか、この場所を捜したいという気になった。特に主人が熱心である。暇なウィーク・エンドにはなるべくそちら方面へ出掛けるようにする。バドチョニトマイやシグリゲットのあたりからは近すぎて山と村、教会、葡萄畑を一望するのは無理とわかった。タポルツアのほうからは三角山が反対になってしまふ。シューメグへの84号線道路からはとてもよく似た景色で教会も村もあるが、三角山がやはり反対になってしまふ。あとで分かるのであるが、この三角山は別物であった。この間違いでずいぶん無駄をした。



何度目になるであろうか、年も替わり、バドチョニを向かって左側に、三角山を右に見るところは、地図の上ではレシエンツェトマイの辺りではないかと当たりをつけ、あの辺のどこか高い所へ行ってみようという主人の"心算"と共に或る日曜日、ポピイの花の満開の頃、お花見がてら出掛けたのであった。

シューメグに向かって84号線からレシエンツェトマイのあたりで左に折れ、細い道をやたらに前進する。いつの間にか舗装道路も途切れ、もうすでにどこか山の中腹である。人影もない静かなデコポコ道を曲がりくねって上へ進むと、道の右側の木々の切れ目にバドチョニ、その隣の一寸低い台形の山、そして三角山と一連の絵の中で見慣れた山々の風景が目に見え込んできた。バラトン湖もおまけのように山の間の向こうに光っているではないか。

あちこちで犬が吠え立てる。背後の葡萄畑の上の一軒家からおばあさんが

のぞく。目の下にあるあの斜面の葡萄畑、その向こうの四、五本のポプラ、同じだ！でも教会は？ない。こんなに似ているところは他にない。ここだと確信に近いものがある。気を取り直しほんの50m程更に道をたどり眺めた瞬間、あった！眼下にひろがる、なだらかな斜面の向こうにけぶる村落に、あの黒い屋根、白壁の塔のある教会があったのである。

あの絵の風景が私達の目の前に拡がっていた。主人は風景を撮りまくり、私は「成せばなる」とか、「待てば海路の日和かな」等、浮かんでくる言葉と一緒に景色を楽しんだのであった。(いつの日か昔の日、ローナイなる人物がここに画架を立てて、この風景画を描いたのだな。ここの住人か、旅人か?)確かによい風景である。背後のおばあさんが、また姿を現して、こちらをうかがっている。犬はもう吠えていない。何をしているのかと思っているのであらう。

満足感に浸った帰路であった。さて

これでおしまいなのであるが、その後泊まり客がたまたま書斎に座ると、なんとなくこの絵に目を向ける様にさせられ、ホラー！と写真を見せられ、この景色探訪を聞かされる破目になるが、まことにお気の毒であった。初めての買物であったこの風景画で、いろいろと随分ハンガリーを楽しんだわけである。勿論この絵は日本の我家にも飾られることになる。

私共にとってハンガリーは在外任地として九カ国目。長男の生れたワシントン、水路がまだ美しい町の風景の一部であったころの三十年前のバンコック、紅葉の美しさに息をのむ思いをしたオタワの秋、マルコス政権華やかなりしころのマニラ、白夜とはこういうものかと楽しんだストックホルム、ロンドン郊外ウインブルドンの家の庭に住んでいた狐の一家との付き合い、ヴェトナムの霧の中のハーロン湾の美しさ、エルサレム城内の喧騒や、ナゲブ砂漠のワジで初めて見た原種のチュールリップの可憐さ、思い出は鮮烈であ

る。そして、ここドナウをはさむブダペストの夜景もそれに加わる。各任地で知り合えた方々、巡り合えた友人の数々は宝物。

私共の三人の子供達もそれぞれよき配偶者を見つけた。脛はまだかじられていたけれど、世代の交代を感じるこの頃である。

皆様どうぞハンガリーの魅力を存分にお楽しみ下さい。御活躍をお祈りしております。そして又、お目にかかれる日を楽しみにしております。有難うございました。ブダペストを去る日も間近になりました。



# 折り紙

山口 美千子

日本人なら折り紙を折ったことのある方おおいいらっしゃるでしょう。私もその一人。

一枚の紙が鶴、風船、かぶと、奴さんにといろいろな形に折り変る面白さいくつも組み合わせて出来る「くすだま」など、折り紙は、まさに日本民族の「紙の芸術」と言えますね。

現代では、幼児教育、大人の趣味、リハビリテーションにと、様々な面から折り紙の効果が見直されるようになり、伝承折り紙に創作折り紙も加わり日本国内ばかりではなく世界各国にもたくさんさんの折り紙愛好家があります。ハンガリーにも通信講座による折り紙サークルがあり、現在三千人の会員がいます。

折り紙の歴史は古く、既に飛鳥時代からあったと言われています。その頃の折り紙は、祭礼や儀式に用いられて

いました。おはらいの時の御幣（ごへい）は、その頃からのならわしです。平安時代になると、宮廷、貴族の間で

儀式、贈答としても用いられるようになりました。今でも改まった贈り物には「のし紙」がそえられますね。この

「のし紙」にもいろいろな作法や折り方があるようです。又、紙で何かの形を作る遊びとしての折り紙もこの頃生

れ、時代を経るにしたがって貴族の間から庶民の遊びとしても広がっていき

ました。江戸時代には、一枚の紙に切

り込みを入れて連続の鶴を折る折り方の本も出版されています。

さて、私と折り紙との出会いは、子供の頃、祖母に習ったのが最初です。病気がちでしたので、家の中で折り紙

や千代紙で遊ぶ事が多かった様です。かなり親しんでいた折り紙もだんだん他の遊びにまぎれてしまいました。

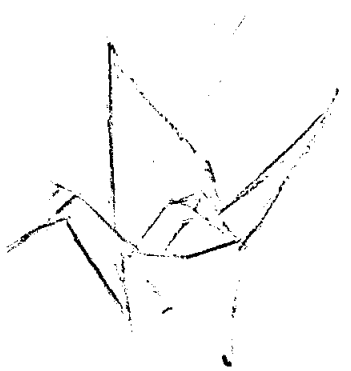
折り紙の面白さや楽しさを再び知ったのは、ハンガリーに来てからです。ハンガリー語ができなかつたので、「こ

んにちは」「どうぞよろしく」「ありがとう」などの気持ち伝える言葉の代わりとしてプレゼントしたところ、

たいへん喜ばれ、「きれいなね」「すてきなね」と言われると嬉しくて、「次は何を折ってあげようかしら」と、覚えて

いるものだけでなく本を見ながらの練習。日本の文化紹介の催しで折り紙講習で参加させて頂く機会もあり、そ

うなると、折り紙作りにも一層熱が入るといふもの。又、いろいろな人と知



## Dear Friend

加藤 久仁子

り合うことで私のハンガリー語も上達していき、ハンガリーの習慣や家庭料理の作り方を習ったり、いろいろな情報を得たりすることができました。

また、折り紙はストレス解消にもなるんですよ。イライラしたり、なんとなく気分がすっきりしない時、折り紙もきちんと折れません。そんな時は、折ることをやめないで、一生懸命折ることに集中してみます。そのうちに折ることに夢中になっていて気分もすっきり。いつも折り紙で悩み解決というわけではありませんが、私の場合つまらないことでクヨクヨすることはなくなりました。

体制改革後、ハンガリーを訪れる日本人、日本語習いたい、日本のことを知りたいというハンガリー人が増えていきます。日本、ハンガリーの様々な面での交流が益々盛んになっていくでしょう。私も折り紙を通して、両国の交流に役に立てるよう努力していきたいと思えます。

お元気ですか？忙しさを理由に、筆不精をしてごめんなさい。ハンガリーは一月が一番寒い、と聞いていたけれど、とうとう雪が積りました。でも子供達は大喜び。少しの時間を見つけるとは、そり遊びを楽しんでます。

いつも子供の事や、食べ物の話ばかりですから、今日は、最近うれしかったことを、お知らせしますね。

先日、長女を連れて町へ出た帰りのバスでの事。生憎、空いた席がな（いと思って）く立っていたら、ドアは締まったのに発車しません。すると、いきなり運転手さんが怒鳴りました。

「○×△□▽×☆！！」次に乗客の何人かが、「VAN！！」（ある。）と答えて、私に向けられた視線で、先程の「○×△□▽×☆！！」は「小さい子を抱いている人がいるのに、席を譲ってやれよ！！」だったのだと直感しました。

そう言えば、子供達を連れて市場へ行った時も、むずかる長女を抱いて順番を待つ長い列の最後に立つ私を、先にしてくれて、文句を言った待っている人に、「子供が泣いているんだから先にしてあげるのが人情って間違いないよ。」と（私の心の耳にはそう聞こえたの）かばってくれた事もありました。

そして、又、ある時、幼稚園からの帰り道、私達母子の横をころがるテニスボールを、坂の下まで車で追いかけて、届けに戻って下さった方もいました。うちの子のボールではなかったけれどあまりの優しい気持ちに感激して「本当にどうもありがとうございます」とと手を振って見送ってしまいました。

ね、ハンガリー人って、とっても暖かいでしょう。

もちろん、アレ？！アレ？！ってときもあるんだけど、その話はいずれ又。

# 私の読書

早崎 勉

ドナウ通信より最近印象に残った本についての原稿を依頼された時、最近まともな本は読んでいないのでお断りしましたが、昔の本でも良いということなので恥ずかしながら寄稿することにしました。

若い頃は結構堅い本も読んでいましたが、会社生活が忙しくなるにつれ歴史小説、スパイ物、探偵物、推理小説と読みやすく面白い物に片寄っており今や池波正太郎の時代物が中心で、これがよかったなどとおこがましくて皆さんに紹介できるようなまともな本を読んでおりませんが、最近読んだ中で比較的面白かったのはハンガリーの近代史書とも言える「エリザベート」でしょうか。

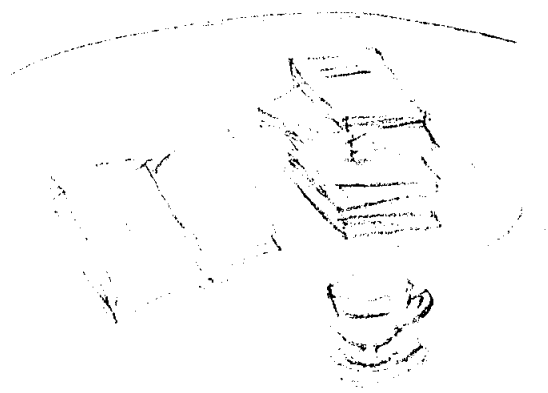
既にお読みになった方も多いと思いますが、内容が省略しますが、まだの方は是非一読される事をお勧めします。

今ははるか遠き我が少年時代に、国語が嫌いで国語の先生から本を読めと言われ、よけい本嫌いになっていた私を本好きにしてくれた小説が、五木寛之著の「あの蒼い馬を射よ」でした。図書館で何気なく自分で選んだ一冊でしたが、ある音楽生が外国に行って事件に巻き込まれる小説だったと記憶します。ストーリーそのものは大したこ

とはなかった小説でしたが、当時田舎者の私には外国というのは本当に遠いところで海外旅行等はほとんど夢の又夢時代でその小説に描かれていた外国の印象が強く、それ以来外国に憧れ外国を舞台とする小説を読みあさりました。

大学に入ってから本は乱読に近い形で読みながらも殆どマージャン、パチンコにうつつを抜かしていた私に衝撃を与えたのは小田実著の「なんでも見てやろう」という海外貧乏冒険旅行の本でした。これを読んだ後、日本にいることに我慢できずとうとう19才の夏に片道切符と500ドル(当時持ち出し外貨の上限)で日本を飛び出す結果になってしまいました。今思えば無茶苦茶な行動でしたが、この時の無鉄砲海外単独旅行の経験が今も楽しい思い出として残っており、この本のお陰だったと考えています。

好きな本は歴史小説で司馬遼太郎の大ファンです。彼の著書は殆ど読破し



ましたが、その中の歴史小説でなんと  
言っても面白かったのは「坂本竜馬」  
「坂の上の雲」「家老河井継之介」で  
した。

秋の夜長に読む本は何と言ってもス  
パイ小説に限りますが、東西の冷戦構  
造が崩れてしまい一番困ったのは東西  
冷戦を背景にしたCIA/KGB絡み  
のスパイ小説作家であり、又私のよう  
なスパイ小説愛読者ではなかったかと  
思います。

私が東欧に着任する前に培ってしま  
った暗い東欧と言うイメージは、実は  
スパイが暗躍する暗い東欧を背景とし  
たこれら小説のせいかもしれません。

スパイ小説ではありませんが、東西  
冷戦を背景とした小説で絶筆はやはり  
フレデリック・フォアサイス著の「ジ  
ヤッカルの日」でしょう。同著書の本  
はすべて読みましたが、何と言っても  
面白かったのはこの本でした。この影  
響か漫画「ゴルゴ13」は今も私の愛読  
漫画です（関係ない！）。

## 掲 示 板

家具付き貸しフラット

家賃：一ヶ月3万5千フォリント

電話付き

場所：ロージヤドム（2区）トロクウ

エース通り、交通便利（バスNo11）

アパートビル一階にスーパーマーケ

ット、花屋有り。

間取り：45平方メートル。3階（エレ

ベーター無し）居間、1ベッドルー

ム、台所、バスルーム、バルコニー

収納場所多、ペンキ、タイルなど新

装。

問い合わせ：英語、もしくはハンガリ

ー語で、ラーズロー、マリナまで。

Leanyfalv

☎0612613801076

（8 am - 10 pm）

IBM互換機に日本語ソフトが載せ

られます。1台のPCが印欧語と日本

語の二つのソフトを走らせませす。マイ

クロソフト社のエクセルとワードの日

本語ソフトを、オフィシャル・デー

ラーがインストールします。

希望者は編集室まで。

編集室

原稿をお寄せください。

26614967（盛田）